

## 第62回中国高等学校バスケットボール選手権大会

日時	2018年5月13日	9:00	女子	準決勝
会場名	ジップアリーナ岡山		Aコート	第1試合

○ 広島皆実	81	<table border="1"> <tr><td>20</td><td>-</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>-</td><td>23</td></tr> <tr><td>26</td><td>-</td><td>12</td></tr> <tr><td>20</td><td>-</td><td>15</td></tr> </table>	20	-	14	15	-	23	26	-	12	20	-	15	64	美鈴が丘	●
20	-	14															
15	-	23															
26	-	12															
20	-	15															

選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル		
安藤 帆南(C)	*	4	14	4	1	2	吉永 愛美(C)	*	4	12	1	4	1	1	
京免 七海	*	5	9	1	3	3	清光 麻由	*	5	0					
山野 沙彩	*	6	6		2	2	1	野崎 晴	6	-					
下瀬 彩夏	*	7	13	1	5	2	2	前野 紗里	7	-					
中本 葉月	*	8	18		8	2	1	南島 萌乃	*	8	20		9	2	2
松田 亜紀	9	3	1					前川 菜月	9	-					
林 桃子	10	-						神田 真希	10	-					
重枝 優香	11	0						藤井 彩佳	*	11	18		7	4	4
得田 歩菜	12	4		2				川崎 乃愛	12	-					
澤崎 唯奈	13	0						折戸 里緒	*	13	14	4	1		
小林 瑞優	14	4		2				戸田 真鈴	14	0					
村井 陽	15	2		1		1		淵上 ゆめか	15	-					
大塚 夏奈	16	-						河野 二葉	16	-					
小西 里奈	17	2		1				藤田 みずき	17	-					
廣田 萌々	18	6		3		2		辻 那瑞菜	18	-					
合計		81	7	28	4	12		合計	64	5	21	7	7		

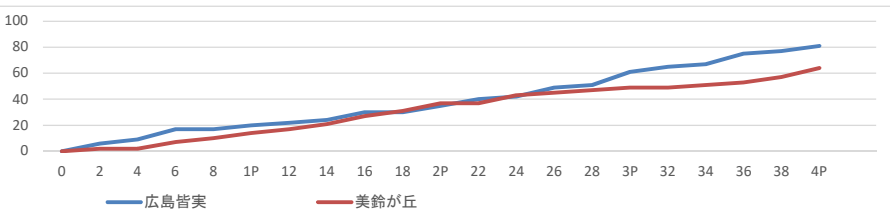
## 戦評

1P 広島皆実がスクリーンプレーを中心に得点するが、美鈴が丘はリズムを掴めない。開始4分で8点差となるが、タイムアウト後は広島皆実のゾーンのギャップをうまく見つけ、得点を伸ばし始める。リードを守りたい広島皆実だが、インサイドに集まるボールを狙われ、得点が進まずに形勢逆転。美鈴が丘は⑬の3ポイントなどで一気に追い上げ、残り1分で3点差にまで追いつく。終了間際、広島皆実⑤が3ポイントで引き離して1P終了。

2P 広島皆実がオールコートDFで勢いを溜めようとするが、美鈴が丘は冷静にボールを運ぶ。美鈴が丘⑬がスローポイントを立って続けに決め、開始5分で同点にすると、直後に⑪のバスケットカウントで逆転に成功。広島皆実も⑨の3ポイントや⑧のインサイドで得点を重ねるが、美鈴が丘も⑧の連続得点で応戦する。同点で迎えた終了間際、美鈴が丘⑪がドライブで得点を挙げ、一歩リードする形で前半を終えた。

3P 両者ともミスに苦しみ得点が止まる。開始1分、広島皆実がインサイドの要である⑧が負傷交代し得点への不安がよぎるが、⑦のドライブや④の3ポイントなどで点を伸ばし始める。一方、美鈴が丘も④と⑬の3ポイントで対抗する。開始4分、広島皆実⑥がステップで相手をかわして得点すると、DFもオールコートのプレッシャーを強め、再び点差が開き始める。タイムアウトで修正を図る美鈴が丘だが、いったん波に乗った広島皆実の勢いは衰えない。終盤には広島皆実④が連続3ポイントを決め、点差を15点にまで広げて3Pを終えた。

4P 点差を縮めたい美鈴が丘だが、広島皆実に厳しいシュートを打たされ得点に繋がらない。広島皆実も⑩がインサイドで連続得点し、リードをさらに広げていく。美鈴が丘は広島皆実のオールコートプレスに捕まり得点を伸ばせない。美鈴が丘は⑪や④のドライブで打開を図るが、ゲームの流れを変えるには至らず、広島皆実が決勝へと駒を進めた。



## 第62回中国高等学校バスケットボール選手権大会

日時	2018年5月13日	9:00	女子	準決勝
会場名	ジップアリーナ岡山		Dコート	第1試合

● 倉敷翠松	64	<table border="1"> <tr><td>10</td><td>-</td><td>20</td></tr> <tr><td>14</td><td>-</td><td>23</td></tr> <tr><td>18</td><td>-</td><td>24</td></tr> <tr><td>22</td><td>-</td><td>20</td></tr> </table>	10	-	20	14	-	23	18	-	24	22	-	20	87	徳山商工	○
10	-	20															
14	-	23															
18	-	24															
22	-	20															

選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル		
角場 沙綾(C)	*	4	6		3	3	山本 楓子	*	4	15		5	5	2	
福山 怜実	*	5	18		8	2	2	磯崎 華	5	3		1	1		
元林 沙月	6	2		1				廣政 桃菜	6	0					
梅澤 実佑	*	7	0			4		幕 凧沙	7	0					
高橋 実優	*	8	20	6		2	4	友澤 真美	8	0				1	
信岡 実咲	9	0				2		三浦 ゆあん	*	9	29	3	8	4	3
妹尾 樹里	10	0						加藤 瀬奈	10	2		1			
平野 愛	11	-						明石 真歩	*	11	9		2	5	2
三島 瀬理海	12	5	1	1		1		藤井 きらり	*	12	0				2
水嶋 嶺花	13	0				3		岩木 梨央	13	5		2	1		
原田 亜未	*	14	8		4		4	谷井 鈴	14	3		1	1		
大谷 玲未	15	2		1		1		藤嶋 美香	15	2		1			
中尾 心咲	16	3	1					木村 麻衣	16	0					2
産賀 菜名	17	0						本田 満里奈(C)	*	17	14		6	2	
下橋 永奈	18	-						池永 琉華	18	5		1	3	1	
合計		64	8	18	4	24		合計	87	3	28	22	13		

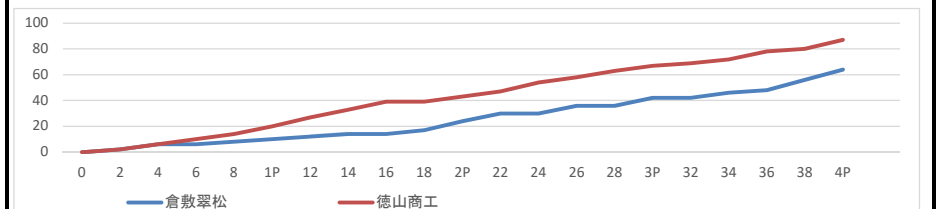
## 戦評

1P 立ち上がり徳山商工はゾーンでディフェンスを展開。序盤両チームともなかなかシュートが決まらずゲームは進むが、開始2分ようやく翠松⑤のシュートが決まりゲームが動き始める。徳山商工はすぐさまディフェンスをマンツーマンに変え、オールコートで仕掛けてくる。徳山商工⑥④のカットインやフォーメーションから点数を重ね引き離す。一方翠松は、⑧の3ポイントからリバウンドシュートを⑥がねじ込み食らいつく。

2P 徳山商工⑩のジャンプシュートや⑨の3ポイントで一気に点差を広げていく。翠松はファールがかさみ苦しい展開になるも、⑧の3ポイントで粘りをみせる。しかし、徳山商工の素早いボール運びからシュートを重ね43-24とし徳山商工リードで前半を終える。

3P 前半の点差を縮めたい翠松は⑭のシュートからゲームが始まるも、徳山商工⑩のジャンプシュートや⑪がリバウンドシュートをバスカンとしフリースローを確実に沈め、さらにリードを広げる。翠松も終盤、⑧から⑤や④への合わせのプレイが決まり、いい流れで3Pを終えた。

4P お互いオールコートマンツーマンでプレッシャーをかけながらディフェンスを始める。翠松⑤のターンシュートや⑭のドライブ、⑧の連続3ポイントで粘りをみせるも、速攻から⑩のジャンプシュートや⑮のリバウンドシュートでリードを保ち、87-64で徳山商工が決勝に駒を進めた。



第62回中国高等学校バスケットボール選手権大会

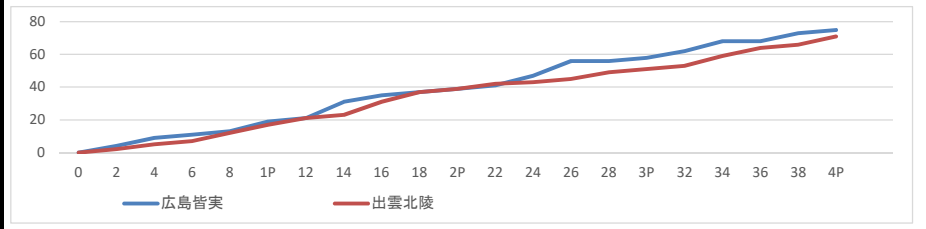
日時	2018年5月13日	10:30	男子	準決勝
会場名	ジップアリーナ岡山		Aコート	第2試合

○ 広島皆実	75	$\left\{ \begin{array}{l} 19 - 17 \\ 20 - 22 \\ 19 - 12 \\ 17 - 20 \end{array} \right\}$	71	出雲北陵	●
--------	----	--	----	------	---

選手名	背番号	得点	3ホィント	2ホィント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ホィント	2ホィント	フリースロー	ファウル
山口 由稀(C) *	4	7		3	1		門脇 隼(C) *	4	0				
石原 奏志 *	5	7	1	2			清水 大成	5	-				
西村 浩志郎	6	0				2	和田守 悠人 *	6	15	1	6		3
繁富 寛太	7	-					小川 歩人 *	7	10	1	2	3	3
直野 圭吾	8	-					郷原 隼人 *	8	32	5	7	3	2
西村 聡一郎	9	-					岡野 寛太	9	-				
三谷 桂司朗 *	10	30		13	4	3	岩田 健太郎 *	10	12		6		2
江尻 翔吾	11	-					高瀬 峻佑	11	-				
阿部 優月 *	12	17	3	4		1	川村 健斗	12	-				
國安 駿平 *	13	2		1		2	藤本 証	13	-				
升田 慎也	14	2		1		1	山口 翔太	14	2		1		1
林 龍之介	15	2		1			寺本 昂心	15	-				
東 蒼一郎	16	8		4		2	高井 陽午	16	-				
一宮 駿	17	0					藤原 大和	17	-				
大福谷 和馬	18	-					山根 幸輝	18	-				
合計		75	4	29	5	11	合計		71	7	22	6	11

戦評

両チームとも他県との1位を下し、勢いに乗るチーム同士の対戦となった。  
 1P 皆実がマンツーマン、北陵がゾーンディフェンスで試合開始。皆実が⑬のジャンプシュートで先制。北陵のゾーンに対し、皆実は⑩が長身を生かし、リバウンドからのシュートで得点を重ねる。皆実10-5北陵となった残り5分、北陵タイムアウトの後、北陵は⑩のゴール下、⑧の3ポイントなどで、皆実の堅いマークに対応し始める。終了間際北陵⑥の3ポイントが決まり、皆実19-17北陵で1P終了。  
 2P 序盤に皆実が⑤、⑫らの3ポイントなどで得点を重ねていき、主導権を奪おうとするが、北陵⑧が皆実の堅い守りに対し、積極的にシュートを決めていき、追い上げを見せる。残り3分、北陵⑧は2本の3ポイントを決め、2Pだけで18得点の大活躍を見せ、残り1分で同点とし、皆実39-39北陵で前半終了。  
 3P 北陵は⑥の速攻、⑧のリバウンドから得点し、残り7分で、皆実42-43北陵と逆転に成功する。一方、皆実は⑩が再びオフェンスの中心となり得点を重ね、再逆転の後、リードを広げる。残り5分、皆実⑫が3ポイントを決め、北陵がタイムアウト。皆実がオールコートでプレッシャーをかけ、差を広げようとするが、北陵は⑩が落ちてきてチャンスをものにし、最大13点差を追い上げ、皆実58-51北陵で3P終了。  
 4P 皆実がゾーンディフェンスを攻略し始め、皆実⑫らの得点で、残り6分でリードを11点差とする。ここで北陵は⑦が3ポイント、カウントワンスローの4点プレーを決め、北陵の追い上げ開始。残り1分、北陵は⑥がこの試合5本目の3ポイントを決め、皆実73-71北陵と2点差となるが、皆実は落ちてきてボールをキープし、皆実⑩が最後にゴール下の得点で、皆実75-71北陵で接戦を制し、決勝にコマを進めた。



第62回中国高等学校バスケットボール選手権大会

日時	2018年5月13日	10:30	男子	準決勝
会場名	ジップアリーナ岡山		Dコート	第2試合

● 松江東	57	$\left\{ \begin{array}{l} 7 - 18 \\ 12 - 26 \\ 15 - 17 \\ 23 - 14 \end{array} \right\}$	75	豊浦	○
-------	----	---	----	----	---

選手名	背番号	得点	3ホィント	2ホィント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ホィント	2ホィント	フリースロー	ファウル
足立 一綺	1	0				1	喜志永 修斗(C) *	4	22	3	5	3	2
濱岡 琉(C) *	2	18	4	3		1	藤井 翔太郎 *	5	5		2	1	2
鳥谷 世歩	3	4	1		1	1	小野田 隼	6	0				1
湯畑 峻	4	-					佐々木 一成	7	0				
小笠原 晃生 *	5	14		7		2	坂口 竜也 *	8	12	2	2	2	
福田 大輝 *	7	8		3	2	2	近藤 優斗 *	9	14		7		1
湯畑 翔	8	-					梅田 陽向 *	10	0				2
根本 太一	9	-					砥上 直也	11	7		3	1	1
宮本 太陽	10	-					下田 英佑	12	0				
山本 晶紀	11	-					福谷 直紀	13	4		2		
武部 僚	12	-					江藤 晃	14	0				1
土江 健太	13	-					濱田 真魂	15	8		4		1
原 建斗	14	-					小西 真樹	16	3	1			
福岡 諒 *	15	6		2	2	3	増岡 克哉	17	0				
河原 晴大 *	18	7	1	2		2	小田 恒志	18	0				
合計		57	6	17	5	12	合計		75	6	25	7	11

戦評

1P 松江東マンツーマン、豊浦3-2ゾーンでスタート。出だし豊浦は④の3ポイント、バンクシュートで5-0としその後も⑨や⑤もゴール下を決めるなどして、いきなり豊浦11-0松江東となったところで松江東タイムアウト。松江東は⑮のバスカンなどで対抗するも豊浦はディフェンスをマンツーマンに④のタップシュートや⑨のジャンプシュートなどを決め松江東7-18豊浦で1P終了  
 2P 豊浦は再び3-2ゾーンをひき④の3ポイントやベースライン沿いのバンクシュート、⑧の速攻などで主導権を握ろうとする。松江東も②の3ポイントやドライブなどで対抗するが豊浦も⑧のジャンプシュート、④も3ポイントを決めたところで豊浦30-12松江東となり、松江東タイムアウト。豊浦はディフェンスを再びマンツーマンに戻し⑨がゴール下を支配し、⑪もスチールからの速攻やドライブからのバスカンなどで点差を広げにかかると。松江東は②や⑤のドライブインなどで対抗するが、松江東19-44豊浦で2P終了。  
 3P 両者ともマンツーマンでスタート。松江東は⑩が3ポイントを決めるも豊浦は④がドライブやバスカンなどを決め、⑨もゴール下を支配し反撃を許さない。松江東は⑦のドライブからのバスカンや②も3ポイントを決めるが豊浦も⑧がコーナーから3ポイントを決める。その後豊浦は控えを出場させ、リードを保ったまま松江東34-61豊浦で終了。  
 4P 両者ともマンツーマンでスタート。豊浦は主力を温存し、控えがスタート。豊浦は⑮がゴール下を頑張り⑬もバンクシュートを決める。松江東も終盤に②が3ポイント、⑩も華麗なドリブルワークからレイアップを決めさらに⑤や②がスチールからレイアップを決めるなど意地を見せた。豊浦は控えを全員出場させながらゲームをコントロールし、終始リードを保ったまま 松江東57-75豊浦 とし決勝進出を決めた。

